謹祝 皇后宮陛下御降誕辰

五月廿八日は　皇后宮陛下の御誕辰と承はります。
吾々草菴も去年當日を地久節と假名して祝ました。

いらつめ第五十五号目次（明治廿三年五月廿五日）

●雑纂　婦人職業論（一）
○新流行胸飾
○砒石白色法
○刺繡獨學（三）……神宮峯子
●小説……炭ぐろ（二）……美妙齋主人
●數學……第五十五號解義……緑梅子
○算術七問
○數理考物二題
●通信問答……言文一致体學び方＝小説作法＝新作十二番の順次＝肥えた身体に似合ふ縞柄＝田舎娘とヒナチトメ＝レモン貯へ方＝花園令娘が數の鶯を作つた時の年齢＝レモンの眞僞＝シンツ、ユカシの語義＝露伴子の文と年齢＝眉毛を濃くするを＝藥劑科及産科と英語＝カルヽス泉據と男子＝其他……翠園亭主人
●通信紹介……智慧袋＝指環＝インキ壺＝女子の務＝角コトヂ箱＝レナリバー＝マルトラバース＝懐中鏡＝レコルム景色書＝以上賣品●安政二年古暦＝右買品●年齢十七歳少女小間遣＝右雇これ口

社告及び社則　いらつめ一部並製金二錢五厘郵税共金三錢、十二部金二拾九錢郵税共金三拾五錢、二十四部金五拾七錢郵税共金六拾九錢、三十六部金八拾四錢郵税共金壹圓〇二錢、四十八部金壹圓郵税共金壹圓二拾四錢〇別製一部金三錢五厘郵税共金四錢、二十部金六拾五錢郵税共金七拾五錢、五十部金壹圓六拾五錢郵税共金壹圓九拾錢〇並別製共前金領收の上で無くては差上げぬ事〇府内に限り無郵税〇毎月二回（五日及十八日）發兌〇金子御差し送りの手續きは郵便小爲替なれば拂渡郵便局とある處に二神田郵便局と記し受取人欄内に（神田平永町九番地成美社）と御記入の事〇郵券代用は郵便爲替の無い處に限り五厘切手で一割増しなれば妨げ無い事〇見本は五厘切手で並製五錢別製七錢領收の上差し上ます〇廣告料一行金八錢、割引無し

本号には **婦人職業論**●新流行胸飾縞稿●刺繡術
砒石白色法●美妙齋氏の小説炭ぐろ

通信紹介 **賣買品**及雇入口●種々の通信問答等
言文一致体學方＝肥体に似合ふ縞柄＝花園令娘が數の鶯を作つた時の年齢＝的の意義其他

雜纂

婦人職業論（一）

此頃某令孃が詳に書と認めて當社よ寄せ婦人の職業についての意見を問はれました。婦人の職業については吾々も前から之を詳に掲げたく思つて居た所、即ち促がされたを機會として爰に號を重ねて論ずる事となりました、

親も許し、當人同士も望み合つた婚禮が濟み、四海浪と平和よ歌ひ納めた後、琴瑟の情は一日一日と濃く、果は愛らしい手遊物の子供まで生れて此世に苦の有るも忘れてくらした其喜びが猶いまだ充分とまで行かぬ間、夫は一朝病ひに臥して終に歸らぬ旅に赴いた、其後ハ妻の心持もどうでしやう。一身の方向將來から言へバ、身に獨居して足りる程の藝と云ッても一つも無いこと、それも辛くよしろ生計を繫ぐだけの資産でも有るなら兎に角、それらの頼みとても全く無いといふ場合ひには否でも應でも直に相當の相手を見付けて諸共に暮らし、其助けを得て此世を送らなくては爲らぬ必要が起るのは當然の事です。手に覺えの事でも有ればそれを便りとして何うにか活計も付く、それが無いためには勢ひ意と枉げて、亡夫を憶ふ懷舊の涙と心ならずも再婚の綿帽子で拭ッてもし子が有れど其子と連れ子、他人の處よ伴ッて行くなければど爲りますまい。此場合に爲ッて如何な女とて他人の手に吾子をかけるのと望ミて爲ません。成らう事なら吾手一つでと望むが母の情。それ情を無理ふおさへて更に他家の人となる心持ちは洵に言ひ尽くせたものでは無く、其心中は思ひ遣るさへ哀れです。それで盲は千人、目明きも千人、其情實內事の如何と問ハず、直よ其皮想から漫評を下し、偏に他人と口さが無く或は之をこなし、之を貶す、其淵瀨も心と虛しうして忍バねばならず、忍んだ所でさて其嫁付いた先きがよければ格別、運わるく其夫が亡るくでも有れは更に前夫の死んだ時の樣とくりかへして涙に暮れなければ爲らず、夫は他人の子とて猶はトめの物珍らしい內は妻の連れ子をもいくらか可愛がりも爲るもの、、猶何處よか隔てた處もあり、馬鹿でも無しそれが母の身にも入れば其度ごとよ昔を思ひ出して來る譯。つまり繼子いぢめも何も角も此一つから始まッて、うた〜其所に於て手藝の無い婦人の身を墓なく感じて來ます誠に積んだ財は減るとも身についた財は決して減らず、腕に手藝に—ろ何よしろ職業を覺えて居ればさてこのやうな場合に第一まごつかなく爲ります。よしや財產の保助が無い

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

にしろ、猶辛くしたにしろ我が口を糊し、又我子を育てゝ行く丈は稼ぎが出來れば天晴誰にも手は指されますまい。この段に於て從來の日本婦人は極めて無頓着であッて、却ッてそれら職業を覺えるのを貴族的で無いと思ッて擯斥し、ふや氣位のみ高くするのを力め、一朝不幸に接すればどう爲る事も出來なくなり、可なりの賢女でもつひ〳〵節を枉げるやうに爲り、遂には極めて尙ぶべき人間の榮譽といふものをさへ汚し辱かしめて仕舞ひます。

かれらは茶湯を覺えても居ましやう、活花とも覺えて居ましやう、裁縫も、禮式も知つて居ましやう。しかし我等がそれを知つた度は糊口の出來るより低い、即ちいづれの藝も其大体を心得ただけ、更に手放されて世に立ッてそれと以て師となるにしろ、どうにしろ相當の報酬そら受けられぬ、是が今日は一般です。中等以上に限らず、中以下でも今日の娘を持つ親々、そられの心からして違つて居ます。これらの心掛を何うと言ふに、實に述べるそら淺いのに思はる程です。

先中等以下に就て言へば、此等親たちは眼中また一片の誠實は德義心も無く、中には有りましやうが極めて微弱で言ふまでも無く娘の當座は榮華と自分の幸福とを料つて其將來をも思はぬ、既に娘を持てば不正な處に之を飲め込み、それで娘は立身するのを喜ぶくらゐなものです。唯是が中以下丈なら宜しいです。更に中等に立ち上つてもそれら親たちも娘がいゝ處へ嫁付くためばかりに藝を敎へるのです、嫁付〳〵試驗に應ずる丈の藝を敎へるのです。裁縫も學ばせ、茶湯も敎へる、その諸藝も大抵其入口だけで奧ではありません。私の娘は是々の藝が出來ますと廣言も爲る、しかし其下から撞着の事も言つて居ます。いよ〳〵好い相手に嫁付けば嫁付くやも實利的の藝をも尙びもせず、裁縫も其一通りを心得て居ればよし、外は仕立屋が仕立てるから抔と澄まし込みます。それで天晴な處の嫁になつて一生姐師さへ起らなければ別に論は有りません。併し、よし其家が富家にしろ、いつ財産が無茶苦茶に爲る事が起るかも知れぬ、或は其處で夫に死なれる事も有る、さア忽ち困ッて來ます。出來るだけ諸藝を娘に仕込むのは結構です。茶湯を學ばせやうが、刺繡を習はせやうが、苟も益の有る以上は吾々とて拒みはしません。唯吾々が反對を抱くのは徒らに諸藝を仕込んだ事にのみ誇ッてそして其中に只一つでも充分に奥まで究めた物を持たず、

つまり一朝不虞の目に逢ッた時驚かずに居られる覺悟の無いやうにする、それです。要するに力が有ッて子女を仕込むなら其種々は藝能を教へると同時、其中本人の性質、實に女性の本性に適した物をえらみ、天晴それをば猶一層深く究めさせる、その心得を忘れぬ事、それが吾々の望です。

ならば婦人に適した職業、しかも專修していゝ課目は何でしやうか？　種々有ります。それ故に長文ながら是から号を逐ッて掲載します。

新流行胸かざり（前号つゞき）

前号に出した胸かざりに就ては早くも女新聞でも節略して抄録しましたが、まことに是は近頃ハ珍らしい新趣向です。これで冬ならば襟先きと幾枚もそろへて着ることゆゑ、よしやこの胸かざりを用ゐたにしろ、其胸かざりの現れるのは些ですが、夏は襟先も手薄いことゆゑ、随分これが目にも立ちます。勿論西洋婦人のやうに全く肌をあらはすなら格別、それほどでも無い日本服に於ては自然夏衣にしろそのならば現れる處は一小部分で、それ故なゝに安價を料れば随分前面の方だけを異物にして後ろの方は普通の紐でこしらへたのでも充分です。これは左様言ッて何れは玉屋へでも命ぜれば調製します。是は最上等の物を言へど其直段に限りも有りませんが、中で簡略に製造させれば大した費用が無くても出來ましやう。形は御好み次第です。銀で花とでもこしらへ中の眞に珊瑚玉でも嵌めたのでも宜しく、また何が無しに玉づくめで爲ても宜しいです。

花顔玉手秘事（五）

砒石白色法

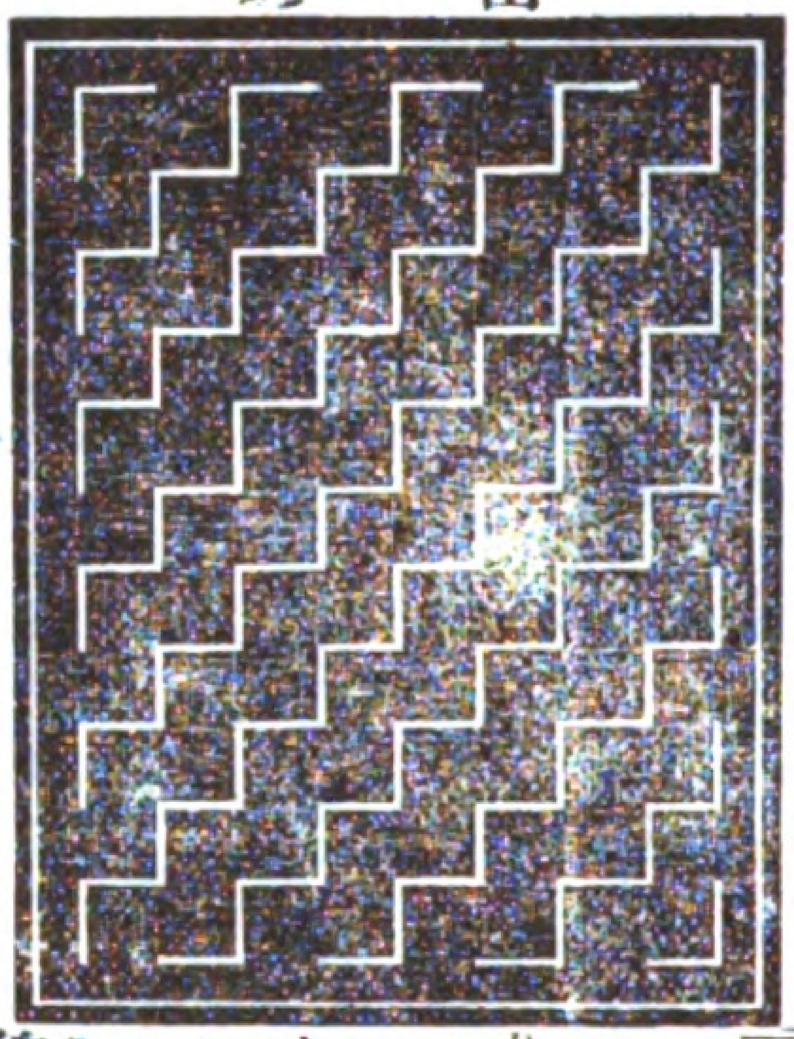
成効がたしのであるだけに砒石白色法と行ふものは注意の上にも注意を加へて、それに辛抱づよくして取り掛らなければなりません。尤も是も充分に分量の末の末までも公言する所存でしたが、名にし負ふ面倒な藥のことゆゑ、僅に其成分だけを載せます。よしやくはしく言つた處が醫者の手を經て藥は貰はなければならぬ事、つひそれ故左の方法を見てもし用ゐる御所存ならば醫者の處へ行ッて相談し、それからの事に爲さい。

其薬劑は亞砒酸少量、還元鐵、及び黒胡椒末で之をバゲンナアナ末で六十丸につくり、少くとも三年間服用するのですが、それも一日より一粒づゝより上は用ゐられません。聞いただけでも面倒な法です。兎に角に辛抱次第です。

縫取獨學ひ(第二)

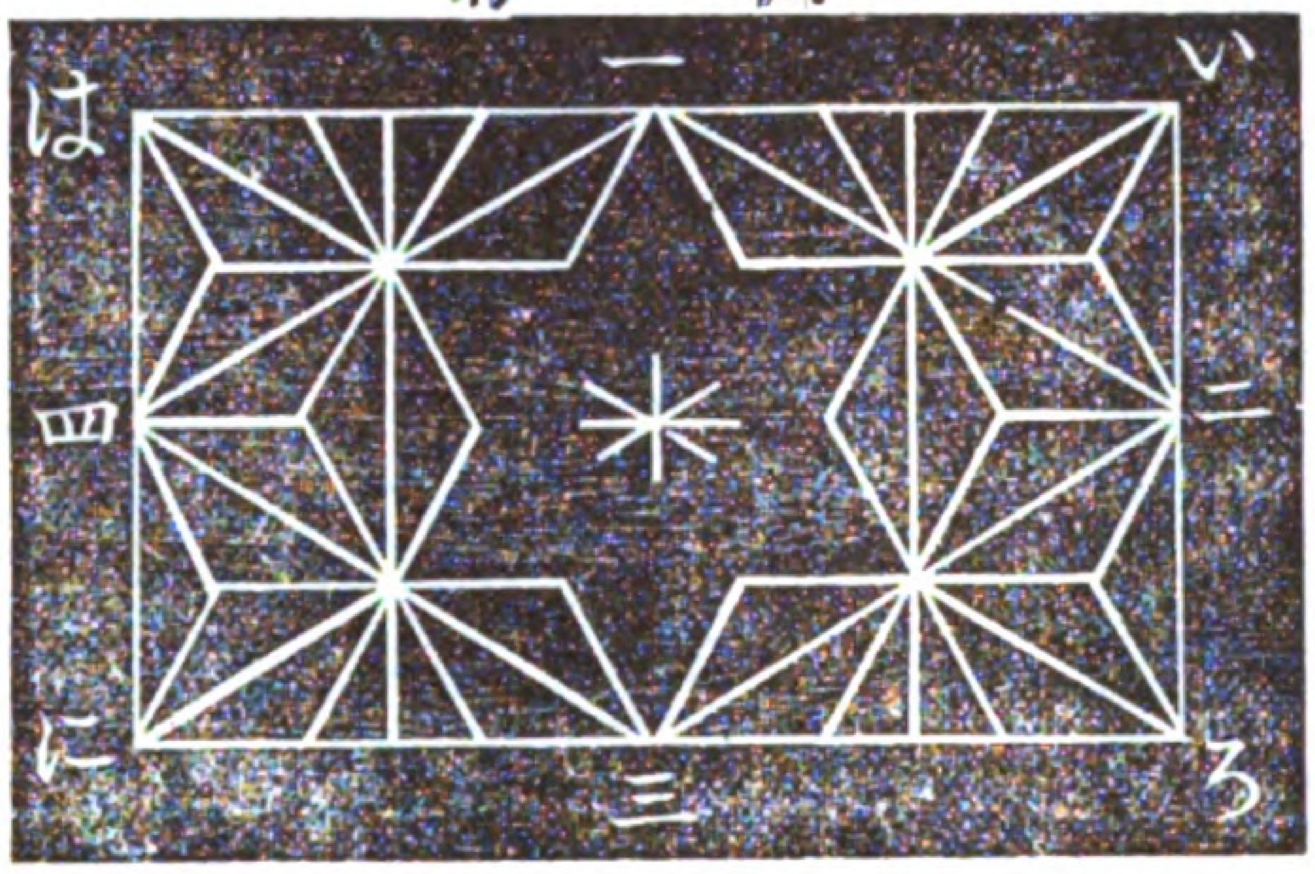
神宮峯子

山道



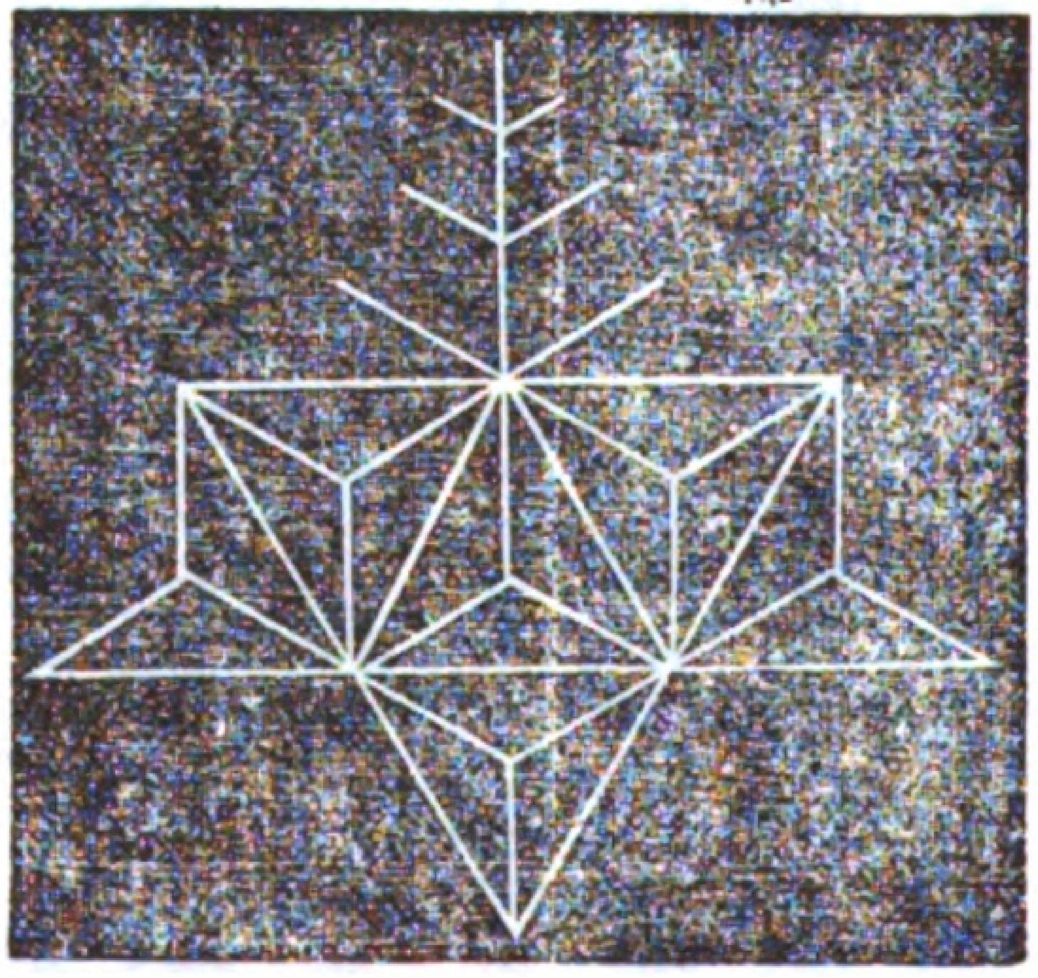
『山道』此山道を縫ふには二分なり三分あり碁盤の様に筋を引き縦れ線から一針違ひに目を拾ひ縫始めるのです夫して縦のそゝましたら横の線を前の通り一と針違ひに縫ふと圖の如く山道が出來ます

麻菊



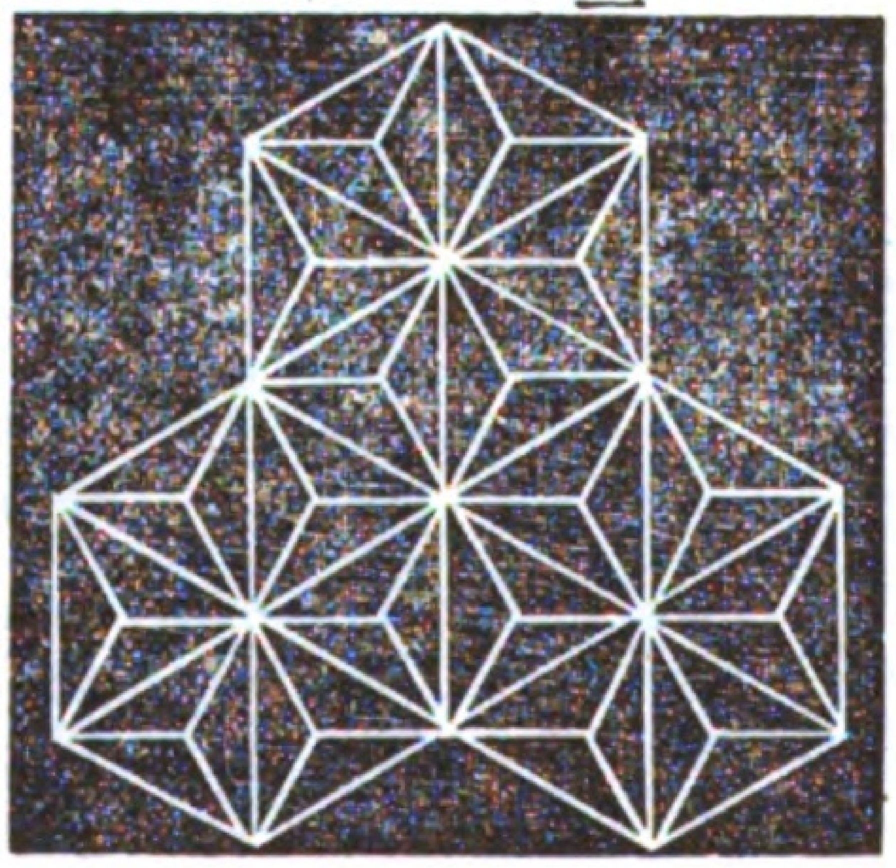
『麻菊』此の麻菊と縫ふにも先づ寸法ときめなければ成りませんが通常茶布巾の布幅は八寸五分位のもれでそから幅は一ぱいよし則ち幅八寸五分ならば縦と五寸位にきめ角の筋と付け次に圖れ如く一二三四の菱形を付け「は」の隅より「ろ」の隅へものさしを當て菱の中へ出ぬ様に筋を付け又「い」の隅より「に」の隅へ同じ様な筋と附け二本の縦の線を引けば跡も圖を御覧なて出來ます。

麻桐



『麻桐』麻桐も三寸あり四寸あり正三角の線を付け縦の寸をおさり眞半分の處に圖の如く『い』のゑるしを付け一と二の寸を量り其寸丈け兩方へ長く線を引けば跡も圖を御覧にて出來ます

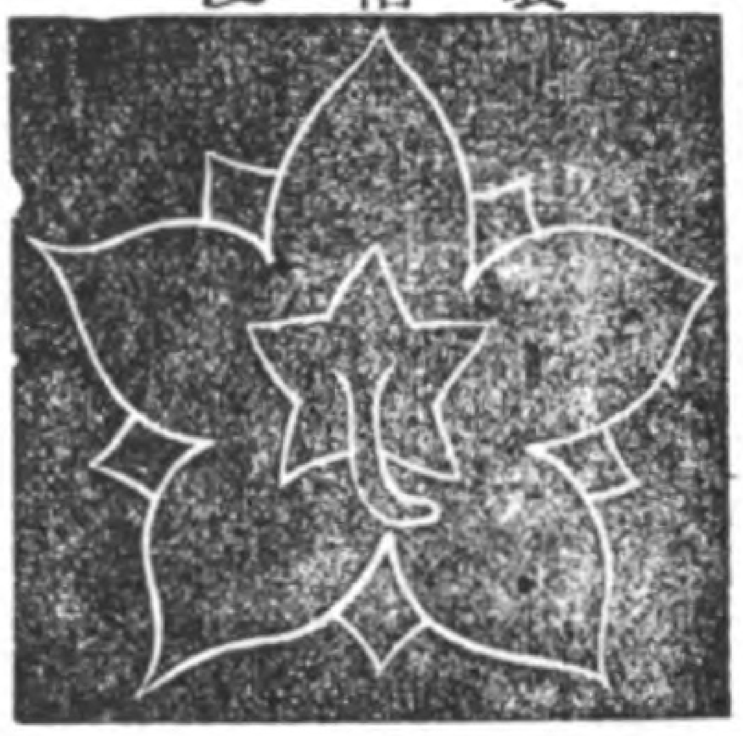
三ツ麻



『三ツ麻』此三ツ麻も厚紙にて六角の形と切り夫を當て三ツ六角の筋を付け六角の隅より隅へ懸けて三本宛九本の大筋を引けば跡も圖を御覧にて麻の葉が出來ます

扱筋を御引きに成つたら竪の大筋から縫始め大筋へ〳〵と順序を考へて縫ふのです

裏桔梗



『裏桔梗』是も厚紙にて上圖の如き裏桔梗の形紙を切り夫を當て〳〵筋を引きますれバ跡も圖を御覽にて容易く出來ます

そして筋が浮出來に成つたら桔梗の花辨から縫始めるのです

麻松葉

『麻松葉』是は先づ「いろ」「はに」の線を引き線の眞中頃に一二のしるしを付け圖の如く「に」より二「ろ」より一と筋を引きますれば跡は圖を御覽にて出來ます

是は別に縫始めとて有りませんが松葉の筋から縫始めれば善いです

雄蝶

『雄蝶』是は別に割方も有りませんから「折鶴」の如く圖を御覽にて淑女方が適宜に角箆にて筋を御引に成れバ宜しいです

猶筋を御引に成つたら眞中の大筋から縫始めるのです

小炭ぐろ

第二

美妙齋主人

官員の日曜日ほど奇妙なものは無く、これらに取ッては隠然日曜は長官まゐりか又は同役との飲み合ひ、この二つをするより外の事は無い様子。丁度今日ころの日曜、朝がのたから夫婦喧嘩で氣も面白く無く、是から何處ぞへ遊びに出掛けやうかと思つて居る最中音信れたのは即ち同役の二三人でした。　一人は四十恰好の、年のわりには白髮の多い人、一人は痩せぎすの色の生白い卅五六の男、今一人も同じくらゐの年輩の小ぶとりした男、いづれ一目見た處が廿圓以上とも受け取れぬ人物。その癖に揃ひも揃ッて口の達者さ、來て座敷へ通るや否や立てつゞけでした。

どんな話しかと言へバ氣樂なもの。はじめは長官の浮噂から起ッて一人の古顏が長官の髯は何時頃からはえたと誇り顏に歷史を說けバ二人の新參が舊つとめて居た省の內幕をしたたかに惡く言ひこなし、或ハ髯からつゞく長官の愛妾の評判、やれいつ何處で一寸見たの、やれまだ見ぬの、やれ同僚の何某の家には美くしい妹が居るの、やれ何處の小間づかひは何うだのと取り留めも無い、聞きぐるしい話しばかり。續いて

は自分の身に關する、歯の浮くやうな事を誇り顔に物語ッて冷かされるをまた愉快と考へて、物數奇にも止め處なく放言するのが來た用事か？やがてこれら社會の極り、妻君が自身に出て來て杯盤を持ち運べバさア一間の空氣ハまた〳〵汚れました。

酒ほどに仕事がこなせたらと餘所目にも思はれる程の鯨飲痛献、果ては身なりも頽れて座蒲團も何もいつか其處のけ、若夫婦のみの家と侮るのか、片膝立ては手酌ぐびぐび。之をば何と評してようらう事やら。あはれ休みは日と放蕩になくるとは！　「醉ふ〳〵」ともう口もまはらず、赤くなてッてランプに輝く額を撫でゝ、中にはもう其處へ横になるのも有りました。

朝は内はひしやくしやも是で散じたとやら、主人も主人、信次もこれが大滿足。懇親會で一度か二度ぐらゐしか逢つた事は無い藝妓を自慢らしく知つたふりで話し出すやら、語もなさぬ五目は歌を唸り出すやら、腐れ詩人に言はせれバ玉山何とかと形容しさうな風体、あやふく銚子を取り上げて振ッて見て、「阿秋！」

「はい」。

返辭を聞きながら生醉の本性、また重ねて「阿秋」と言ふ頃には早阿秋も顔を出しました。

「馬鹿、銚子だい」。

女は身はつらいもは。馬鹿と言はれても醉人と思へバ氣にも留めず、直さま代りの銚子と持ッて來ました。御酌と命ぜられてまづ一順は手はじめ若い男に何心なく銚子を向けました。

「ああゝ、御わついのを御一つ」。

きの字なりに寐て居た、今呼び掛けられた男は、無禮な奴起き直りませず、

「やア是は令夫人、御うつくしいな、いつも〳〵。うまいぞ、げエい、君はなア…」

笑つて次へまはらうとする阿秋と急にとめました。

「ちよ…ちよ…聞きたまへ、令夫人。げエい、君は本當に男ころしだ。え、君、男…こチしざよウ。ん〳〵ちやア無いか、それ笑靨さ。見たまへ、君は良人に近頃痩せたッてへ評判だぜ」。

阿秋はこまり果てゝ暫く其儘。

「よう、令夫人、今思ひさしたア有り難いだらう。僕の

を一つ受けてくれたまへ、よウ」。

「不調法で厶いますそうら」。

「へェん、旨いねェ口が。　其口だから堪らんさ。ねェそれぢやア其うまい君の口から口うつしにいたゞかう。　君だッて初ぢや有るまい、口うつしの意味は御存じだらう。　知らなきや僕が敎へてやらうさ」。

から是が痩せても枯れても一人れ女性、しかも細君に對そる言ひ草か。くわッとして阿秋も顔が紅く爲る。それとつくづく猜次は見て居ました。

阿秋は胸もとゞろいて、其男とバ無言で睨めて身を固くして退いてちらりと一目夫の顔を横眼で見れば、南無三！面色も常では無い。酒の所爲も一つ、目までも血走ッてそれくせ顔はむしろ蒼く——さア何か言ひ出しさうでした。

數學

第五十三号解義　　　　緑梅子

●算術

(1)本題ハ當号に載つて居る(3)と同じ樣な題の誤でした、それ故解は省きました。　鹿忽の罪は幾重にも御容赦を願ひます。

(2)二三五六の四つの數字へ各七を掛ければ14 21 35 42となります。　で、何んな數でも單位數を掛ければ何れ位も二つれ數より多く加はることはありません。　此問題の場合では何う加へ合せても十以上になるのがありません。　即14の4と54の5と加へても九となるばかりです。　ですから何んな數に作つても其總和は1 4 2 1 3 5 4 2の和即ち廿二です。

(3)二四五七九の五つの數字へ各六を掛ければ12 24 30 42 54とあります。　この諸乘積を見るに奇數は十位に三つあるばかりで其他は皆偶數です。　そして前の樣にどの數を加へても十より多きな和は出來ませんから任意に作つた數へ六を掛けた數は此十個の數字の相交つた和で成立つ數です。　で、一位或ハ十位ばかりで加へ合せることがありませんから奇數三つハその數に加はつても奇數と偶數の和即ち奇數です。

(4)答六十斤。（解）十四錢五分の二で總斤數の三分の二を賣つたのは十四錢五分の二の三分の二(即ち $14\frac{2}{5}\times\frac{2}{3}=9\frac{3}{5}$ 錢)で總斤數を賣つたのと同じ事です。 で、題意に依り十二錢で總斤數を賣つた原價と九錢五分の三で總斤數を賣つたのとは $14\frac{2}{5}\times 10=144$ 錢の差のあることが知れました。 故に總斤數は $144\div(12-9\frac{3}{5})=60.$

(5)答一斗四升四合。（解）同じ金員を一とすれば米と麥の一升の價は $\frac{1}{21}$ と $\frac{1}{18}$ です。 ですから各 $(1+1)\div(\frac{1}{21}+\frac{1}{18})=14\frac{2}{5}$ 升即ち一斗四升四合づゝ買へば宜しいです。

●代數

(1)今假りに $(1+2+3+\ldots+n)^2=1^3+2^3+3^3+\ldots\times n^3$ (問題の式はこの誤)を眞實とすれば $(1+2+3+\ldots+n)^2+2(1+2+3+\ldots n)(n+1)+(n+1)^2=1^3+2^3+3^3+\ldots+n^3+2\left\{\frac{n(n+1)}{2}\right\}(n+1)\times(n+1)^2=1^3+2+3^3+\ldots+n^3+(n+1)^3$ です。 で見れば終りの數がnの時も眞實で $n+1$ れ時も眞實であるばかりでなく其次も皆眞實です。然るにnは數を定めませんから1としても2としても宜しいです。 故に $1^2=1^3$, $(1+2)^2=1^3+2^3$, なども皆眞實です。

(2)上式を變化すれば $x^2-18x+85=x^2-18x+81+4=(x-9)^2+4$ となります。 これ式の中で $(x-9)^2$ の x を何んな數でも常に正數となりますから全式は4より小さくなりませんのは無論です。

右皆答者岡田榮吉

算術　　晩翠生

(1)甲乙二數あり其和二百零七其積一萬零五百八拾あり甲乙二數各幾何及び其理由如何

(2)甲乙二數あり其差五十二其積五千二百五十三とある兩數幾何及び其理由如何

(3)甲乙二人は脚夫なり同日に甲は東より發し乙は西より發す其より十二日目にして其道程の中央より廿四里隔りたる處にて甲乙二人相會せり是より甲は八日にして乙の出發所に着し乙は十八日目にして甲の出發所に着せりと云ふ此道の長さ及び甲乙一日は速力幾何

宇佐美　かず子

(4)大中小の三數の相乘積は一千八百七十五で三數の差は順次に小の數の二倍となつて居ます。 其數は?

(5)或湊を出た船が他の湊ょ行つた航路と始め若干里を正南に走つて次に同じ程の里數ざけ正東に走りまた正南に向ひてと正東に向ひ交互に幾度か航して終に他の湊ょ達したとの事です。それで此両湊の直路は百四十一里七七餘であるならバ此船の航路は?

槐月陰史

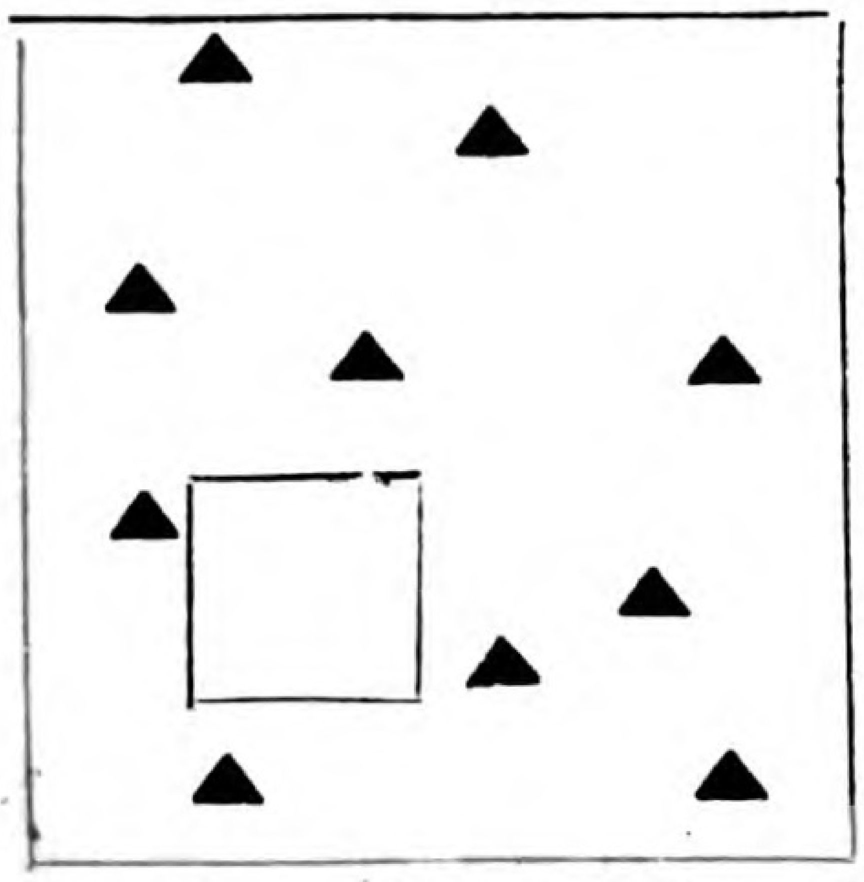
(6)兩數の差で兩數を除つた剩餘は必らず同じです。其理?

(7)甲の數で乙の數を除れば商に.7を得て其二つの數の差は六個です。各幾個?

數理考物　翠園亭主人

(1)3の字三つで1にある式を作つて御覧なさい。

(2)次の圖と十六坪の地面で中の四角と一坪の數で三角と皆松の木です。そしてこの數は左からと下からは一間離れて右と上からは二間離れて居ます。



此地面の持主が五人の子に同じ形でそして松の木を二本づゝ分けて與へました。何う分けましたのでしやうか? 皆樣御考へ下さい。が勿論數と取り除くのです!

通信紹介欄增加披露

通信問答と云ふ物を正ょ日本の雜誌ょ行ッた其始がは實に我がいらつめで、始めは實に微々とした物でしたか終に今日に至つては次第に世れ信用を得て毎号殆と欠かさず出る運ょ爲りました。と言ふのも獨り本社が創めた斗であく、正に愛讀諸孃がいらつめに對そる愛顧と信用との深く且厚い、夫が抑も一大原因です。今日に於ては他の雜誌でも亦あれ欄を設けたのも有りますが、主として之と設ける必要ょも廻られたからの事で、其必要と言ふは他事でも無く、人事頻繁の今日、複雜の時代、正に吾が知らぬ處、又不分明あ事をそれ〳〵簡略に心得たくある其必要、それに促がされたからの事です。されば今後の處通信問答の科は益々擴張して行くつもり。その擴張とバ直ょ次号から實行そる所存ですが他雜誌が猶空に看過して居る處に着手そるのも強ち奇を好むれでも有りません。今日れ處、實に今後の處、今日の儘の通信問答では滿足しては居られません。敢て吾から贊辭を吐きませんが、幸に左に列記した箇條を御覧ぁ爲ッた事ならバ吾々の苦辛の有る處を讀者諸孃も御覧にある事でしやう。今後は是をもいらつめの專有と定めて諸孃と共に便利を料らうと思ひます。

通信紹介規則

(一)通信物品紹介文掲載と望む者は原稿共に掲載料及保証料を送る事(二)掲載文ょ對し約定を望む人は其代金及保証料を送る事但し此保証料は相手の掲載文の保証料と同額の事(三)掲載料は五号活字廿七字詰一行金五錢宛、保証料は一行五錢宛(四)雜誌發兌の十日前に受取つた申込と其号、十日後のは次号に載せる事(五)紹介文掲載申込後其取消請求が有てゝ領收金員は返さぬ事(六)紹介文掲載後約定望人が既ょ出來、そして掲載申込人が取消請求した時には双方の保証料を悉く最近のいらつめに換へて約定望人に返す事(七)約定望人が一時ょ二名以上有る時は約定申込書の郵便の消印れ時刻で前後と定める事(八)既に一名の約定人が出來た時は第二の約定人には別段返事を出さず其代り第二約定人の保証料と最近のいらつめに換へ、其他の代金は三十錢以下一割増の切手又卅錢以上は爲替で返濟そる事、但し返送料は其内から差引く事(九)約定望人が有れバ本

社は直に郵便で掲載申込人に其趣を知らせるよ付き通知得次第掲載申込人は其品物を運賃自辨で本社へ送るべき事、本社では品物と引換よ、代金を卅錢以下一割増の切手卅錢以上爲替掲載申込人よ支拂ひ、直に其品物を通運便先拂で約定望人に送る事、是等の場合に於て保險を望む人は豫め其由と言込む事、但し保險料も自辨の事(十)約定出來の上は約定双方の人よ各保証料と最近れいらつめに換へて返す事(十一)此約定は最も双方の誠實と僞ふ事ゆゑ其間に双方共虚僞と挾んでこ爲らね事、品物其他共本社では紹介をるバかり其品よ就ての責よは一切任せぬ事、物品差立の荷造こ成丈丁寧にして封印と打て置くべき事、本社では決して之を開封せぬ事(十二)其實物よ接せを偏り誠實から成立つ約定ゆゑ申込人も其品物の体裁を眞齒に記そべき事(十三)掲載の文には本人の姓名を秘す事、但し本人うら姓名所も掲載れ命が有れバ例外(十四)以上規則に因つて取扱ふ物品は普通の小さな物に限る(十五)以上諸條の犯則と悉皆没書の事●(一)奉公口れ紹介周旋又に對し紹介約定申込が有れバ本社から其趣と本人に通知せる事但し是は物品と違ひ其後の事に本社で干渉せず都て双方の勝手に任せる事

此規則を些バかり印刷して讀者諸君の中の一部分に過日諸配付した所早速諸方の贊成と得て左れ通りの件々が申込になりました。創業の事ゆゑ數も種類も少いですが、やがて諸君の愛顧によつて益増加そる事と信じます。

○賣拂

(一)明治十二年七月から十二月迄の智慧庫、一冊も欠本無く、賣價參拾錢…………東京芝

(二)鍍金細手指環、直徑一分余れ紫水晶入、彫無し蒲鉾彫、賣價四拾錢、但鍍金ハ厚い…………東京本郷

(三)純銀二分玉珊瑚入、直徑五分、銀性中等、賣價廉價六拾錢、至急…………東京本郷

(四)インキ、壺赤黒二室付、總ガラス、チョ蓋、賣價四拾錢…………東京麹町

(五)中川重麗氏譯女子の務、一二度しか讀まを、無記名、賣價五拾錢…………横濱

(六)純銀角コトザ簪、さ長並、銀性上等、七拾錢…………東京築地

(七)ミス、メレー、ホルムス女小説レナリバア、至急賣却　賣價二拾五錢…………東京神田

(八)リットン作小説マルトラバース、賣價二拾五錢、但し上等の製本…………東京築地

(九)姿見製上等厚二分の懷中鏡、幅二寸縦三寸五分、裏面に寫眞の入場あり、賣價八拾錢…………東京番町

(十)コルム石版油畫風深山景額面、横八寸、縦一尺五寸、賣價三拾五錢、但し縁無く…………東京淺草

○買入

(十一)安政二年の略暦一部…………東京神田

○雇入

(十二)年齢十七歳の女子、小學校卒業生然るべき保証人あり、諸禮を覺えたい志願、給料望無く…………東京下谷

通信問答

花英好子——言文一致体の文章と一口に言つた所で猶それを書く人は其俗言中の野卑な言語を避ける心掛が第一の肝要です。次れ注意はなるべく語句を簡略にして濟ませる事です。其次の注意は平常れ語と成るべく相違させぬ事です。今日れ言文一致家と當初試驗れ犧牲ゎ爲つた先隨分其等の人れ以前の文ゎは恐い處も有ります。が、實の所美妙わよくし自身の上で言へバ少し練れて成たのはいちご姬以後の文ぐらゐなものです。もし御學びなら是を御參考よ爲されたく、其他は目下此雜誌に出して有る炭ぐみの文で、是等になつて過去未來の書き分けが餘程定まりました。通信問答欄は挾い事ゆゑ委しい所も言へませんが、貴娘のミか諸方からの御尋ねも有りまそから次号邊から荒増の其心得を此雜誌に掲げましやう。猶しかし其間御意見の在る所と直接よ御尋ね下さい又小説作法をも御尋ねでしたが、小説は別に作法と言つて他れ藝術やうよ固實してある物で無く、元々社會人事の書ですから何れゎ無し其事實思想等を思ひの儘よ記し、そして其事が讀者にも分かれバそれで宜しいので、只其所に文章とか配備とゝの助けを以て讀者に興へる感動が或こ深くも淺くも爲る物です。何にしろ小説と御作りなら然るべき世の名作をよく讀み味はつて見るのが專一です。是も咄嗟に言ひ過せバ過せるものゝ、矢張り隨分混入つても居ます。只小説の作り方と言へバ前言つただけの事。其他は作者の熟練にある事です。(右美妙齋答)

神田一女生——春陽堂の新作十二番の勝関の次は須藤南翠外史の作が出るさうで、美妙齋氏のは其次との事です。

大山八重子——仰の通り前々号の當雜誌流行欄へ出した諸織物と白木屋へ行つて御求めになれバ直あります。

みつ子——御身体が肥えた方ならバタテ縞の着物が似合ひます。忘れても横縞と着る物でこわりません。肥えた方が横縞と着るといとゞ肥えて見えます。

江崎近子——田舍乙女といふよりして田舍むすめと言ふが至

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

當です。既よナトメと言ふならバ「ヒナノナトメ」と言ふが至當です。辭を組み修辭上け注意はこゝにあります。

笹川ゐる子――(一)レモンは矢張り奇麗な桶によく乾いた清い砂を盛り其中に肌と肌と接せぬやうして入れて置いて貯へます(二)サルサ根は一口よ言へバ清血劑です(三)花園令孃が敷の鷲を著された時はたしか十七歳でした。

金井しづ子――態々御送り居け瓶の貼紙をも拜見しましたが、其貼紙の樣子を見るに確よ其レモンそ僞物、而も日本製です。多分本當のレモン少しよ混和物をしふれでーやう。それに仰る位な縱三寸もある瓶入で金五錢とは愈々僞物に決まつて居ます。保証して僞物です。貼紙ハ御入用なら郵劵御差送次第返却します

露野智慧子――(一)いらつめ第卅九号口畫の題歌「君見よ君見よ」の下は「やまとだましひ」です(二)美妙齋氏ハ以前高等中學が豫備門と言つた頃暫時其處よも居ましふ。又同氏ハ基督信者ゐとの御問、少々考が有つて同氏ハ自ら其信者とハ爲らせ、又其向の人とも交際を多くも爲ませんが、常ゐら同敎を諫みハ爲ません(三)紅葉山人の文にハ如何にも「シンゾ」といふ間投詞が有ります。是ハ「カミカケテ」などの意で、極究まつた語です。中古から職文よ用ゐ初めた語です(四)「ユカシ」を「床し」と書くのハホンの語音から「床」と當てので素より意味です。「幽し」と當てるのもや〻意味ハ出て居ますが猶いけません。要するに「ユカシイ」ハ「慕ハしく思ひやられる」などの意で、漢字よ當てれバ、夫故、實ハ「慕し」と書いて「ユカシ」と讀むのが至當です。是も仮名無くてハ讀をよくいです。から普通ハむしろ仮名で書くのが宜しいです。止を得なければいッそ普通に從つて猶「床し」と書いて置いて差支なりません(五)露伴子の文体もまづ雅俗折衷体です、たしの同氏ハ廿四歳か五歳でした。

京太郎――(一)目の緣の淺黑いのハ咄嗟にハ直りません。血が清淨なするバかりです(二)眉毛ハ幾度も剃れバ濃くなります。恰好ハ直せません(三)唇の色を紅くする法ハ知りません(四)洋服、實に跳を穿いてハ女子でも內輪に步くのハ見苦しいです(五)大井◎兄子ハ大井憲太郎氏の令閨でハありません(六)いらつめに一度出たやうな國語故事を書いてゐる書ハ吳竹集などもさうです。

松田操子――(一)妙齡とハトシゴロの意。イカヤハシイとハ不都合の意、而も是ハ猥褻の意が有ります。アドケナイとハ邪も無く、飾りも無いとの意(二)寐る時實丹を少し含んで寐るのハ大よ宜しいです。多量だといけません(三)藥劑科及產科

と修めるに是非英語を要すといふ程でも有りませんが、ぜひらかと言ふと少々ハ英語の心得の有る方が宜しいです(四)斜方形の謎ハ矢張り方形謎と同じく、右から讀んでも左から讀んでも、或ハ上一字を取つても、下一字を取つても意味がわかる風の謎です。餘白が無いため圖ハ拔きましたが、更に前々号のを御覽なさい。直わかります○色々いらつめよ御最負の御口條拜謝します。

笹川はる子――京都諸名勝寫眞わさゝ御求先御惠贈の段拜謝します。

晩翠生――カル、ス泉鹽で頰の赤のを直ほそのハ男子にも無効ではありません。

井蛙女史――天刑病癩病ハです。(一)植物とシユクブツと云ふのち誤でやハりシヨクブツと云ふれが宜しいです。(三)知りません。(四)指先のサカムケを治すにハリスリン又ハポマドンネールと塗るのよ限ります。(五)臚をナツとんふのハ國訛でウツの方が宜しいでそ。

某史――懸賞文藝の原稿用紙ハ罫紙でも差支ありませんが半紙でなくてハいけません。一枚の裏表に二樞類書いてハいけません。(二)花村居士ハ鳥居林平氏でそ。(三)西鶴の著書ハ好色一代男好色一代女織留置土產などです。(四)芭蕉翁の俳句ハ少し善い俳句の本にハ載つて居ます。

しづ女――硼砂とハンドコロンと用ゐるにサルサ根を是非服用しなければならぬ物でハありません。上等の石鹼ハやハり東京から御求先になるのが宜しく又別に其代用よなる品ハありません。

神崎ゐい――食事に氣を附けて喰ひ過ぎぬ樣なして適宜の運動をすれハ身體ハ自然に肥えます。(二)香水や石鹼け製法ハ一寸ハ云へませんよし云へたにしろ機械も入る事◎ゑ田舍で自分で製へるのハ先づ難い事です。

さとのやもゝち――韻文ハ散文に對して附けた名で響きの有る文との言でそ。本月十八日から改進新聞よ『韻文の目的』といふ題で美妙齋氏が書かれた論文を御覽なされ(二)唱歌の語格作法ハ廿八号の前後に連載してなります。(三)形而上ハ物体以上即ち無形のもの、事で形而下とハ其反對です。積極的ハ正消極的ハ負、前が加なら後ハ減です。(四)レモンハ西洋八百屋で賣ります。(五)美聲の心得の通りなしたところが濁聲ハ清朗な聲にハなりませんたゞ其幾分か直はる迄で別よ妙法と云ふのへありません(六)和文和歌と稱習せるゐハ言葉け千草、ふの山ぶみなどが先づ難のなれ方です。價ハいづれも四十錢以下でそ。(七)藥紙にハ石灰其他のものを含んで居るからです。

○懸賞文藝新題

○第廿二回題（唱歌文章に限る）
右 梅雨窓前に香を焚く　六月十日〆切

○第廿三回題（唱歌に限る）
右 午睡美人　六月廿日〆切

○第廿四回題（唱歌文章ヽ限る）
右 採蓮女　七月十日〆切

○第廿五回題（何でもよろし）
右 盆燈籠　七月廿日〆切

○第廿六回題（文章に限る）
右 谷れ螢　八月十日〆切

○第廿七回題（何でもよろし）
右 源氏を讀む　八月廿日〆切

○第廿八回題（何でもよし）
右 意中れ人の品定め　九月十日〆切
右は男女に限らず或は夫、或も妻、いづれにしろわが望む理想の佳人君子の品定めと言ふのです。

○廿九回題（何でもよし）
右 子の生れた時の親心　九月廿日〆切

○第三十四題（唱歌文章に限る）
右 殘夢　十月十日〆切

近頃應募者れ中に應募規則ヽ背くものが有りますが是から其作の巧拙に關せず犯則と容赦なく審査外にします

右文藝應募者心得

第一 題を種にして成るべく趣向と立てるれを尚ぶ事○第二 唱歌淨瑠璃及ひ文章は各一千五百字以內の事○第三 一人で二種類の作を投せられた人は一種類各別々の紙ヽ書く事○第四 原稿には宿所姓名明記の事○第五 原稿は半紙に限る事○第六 第二第三第四及ひ第五に背くものは沒書。賞品

菊水摸樣の金叉は銀杯

○二等いらつめ十二部○三等三部

●いらつめ次號は來六月十日發の所繰り上げて五日發兌●

庚寅新誌第七號（毎月二回發兌一部郵税共金六錢五厘）●庚寅新誌○

帝國議會に起らんとする一大問題○戰爭は追々減少の傾わるの如し●論說○工藝論（一）○日本美術品は如何よして西洋に出でたるや（高橋義雄）○敢て政府に望む（品海漁夫）○租税の原理（零々生）●史位○バーチ氏位●評林○伊勢の遷宮式○日本の水夫○アルフレッドイースト氏の書●雜錄○立憲政の祖國希臘民政史（成田鐵四郎）○英詩學（SY生）○勞動社會改良主義（四谷學人）●寄書○農業策（田村猾人）●譚海○天堂へ昇る引導○牛ゞ挨拶○貴公子○不治の眼病○貴顯の賭博○手の皮一枚○口なくて云ふ○救命藥●小說○昔話妖怪退治（一）山人譯）●時評○御還幸○尾大不掉○勿論○不幸を弔ふ○誰か偏を作る○奇新天爵○寠髻高估○濡衣○妖鬼軍人を嘲む○菜色六○歸れ地方人士○能く沸然たるを得る乎○而して●文苑○詩歌文章

發行所 東京芝公園八十四號 庚寅新誌社

北陸婦人教會雜誌第七號目次

法話
○本願寺派御法主令敎會親論
○大谷派御門跡貴婦人會親敎

論說
○女は女らしくせよ　大森勝濺
○家內の風儀習慣を改良すること　井上圓了

傳記
○惠燈大師の御傳（其五）

文苑
○和歌十二首○俚歌一曲

小說
○金谷館（第三回）　瑰堂散史

雜報
○本願寺御裏方拜謁○佛敎女學校○耶蘇敎女學校○美婦人品評會○佛敎婦人會○北海婦人會○問對寸抄○此頃の流行

會報
○美術部月次會(?)兼題○橘大倫氏○木村頁觀氏の能越巡回○新入會員

發行所 石川縣金澤市高岡町下藪ノ內拾五番地 北陸婦人教會本部

柵草紙

第八號

五月二十五日發

一冊定價七錢郵税五厘

妹辰子を祭る文……落合直文

吾吾の言文一致体……山田武太郎

外山博士の書論を駁す……森林太郎

發行所下谷區花園町　新聲社

吳服洋服

白木屋賣出廣告

○例年の通り來る六月一日より三日間夏衣賣初仕候間賑々敷御來車不限多少御用向の程偏ニ奉願上候

○よせきれ種々　○見切反物種々

○蚊帳地種々　○仕立蚊帳種々

○直輸入品新着廣告

豫而歐洲各國へ注文致置候男女洋服地新柄澤山入荷相成候間一層勉強仕候

○新柄フラ子ル　各種

○セル疋田織單物地　各種

○珍柄スル單物地　各種

○絹及キヤラコハンカチーフ各種

○水波琥珀女帶地但黒茶菫色壹筋價金十四圓前後

○女物ゴム引合羽二圓以上六圓半以下

○男物ゴム引合羽三圓以上六圓半以下

明治廿三年五月

日本橋區通壹丁目　白木屋　吳服店洋服店

少年文範上下二編

一冊定價金三十錢

郵税金四錢。郵券代用を謝絶す。

文學の隆興實に今日の如きはなし。而して文章の荒廢又今日の如きはなし。此際少年の文章を學ばんとするものは、實に進路に迷惑せざると得ざるなり。本園夙に之を憂ひ、世の少年をして據りて以て模範とすべき一書を編し、邪徑に陷るに至らざらしめんと欲する久し。因て昨年の春より此書の編輯に從事し、此に漸く世に公にするに至れり。書中載する所は今人古人の名文中事實文章並ながら妙なるものゝみにして或は紀事なり、或は論説なり、主として天下稀有の奇文ならざるはなし。殊に毎篇親切の批評を加へ、或は其人の小傳を掲げ、或は其人の文章を總評し、而して更に其載する所の文章を分析したれば、一讀の下人其を知り、又其文訣を悟道するを得べし。今日文章に志ある少年諸君、請ふ一本を購ふて座右の友とせよ、啻に妙味を解するのみならず、其才識を長じ又邪徑に迷ふことを免るゝを得ん。

上編

波寧流女史ヲ提フ……柴四朗

新日本ノ青年……德富猪一郎

亞細亞大ニ於ケル今後ノ新大獨立國……志賀重昂

少年ノ心ニ於ケル宇宙ノ變遷幷ニ危險ナル宇宙……坪内雄藏

攝原遊記……饗庭篁村

路易王ノ出奔……森田文藏

澤村田之助ノ話……依田百川

空林登詳密ニ事務ヲ辨理セシ事……中村正直

下編

伊豆の海……瀧澤馬琴

笠亭仙果に送る……高島種彦

天の逆鉾……宮川南谿

花月れ遊……松平定信

長町の記……上田秋成

紀伊國屋亦右右衛門……柳澤里恭

春の樂み……貝原篤信

最負だをし……熊澤了介

細川家……新井君美

頼朝論……新井君美

人の婿たると辭す……新井君美

赤阪城いくさの事……大平記

龍馬進奏の事……大平記

忠信吉野に留まる事……義經記

如意の𛁈たり……義經記

鬼王團三郎曾我へ返りし事……曾我物語

實盛最後の事……平家物語

忠度都落の事……平家物語

東京府下北豊島郡上駒込村拾九番地　少年園